

「少年と木」 作：エマ・フィン

あるところに男の子がいました。男の子は、木から花びらがひらひら散るのを見るのが大きらいで、花が散ってしまった桃の木を見るのもきらいでした。

家に帰る途中に、花がみんな散ってしまった裸ん坊の木のある公園がありました。ある春の日のこと、男の子と、男の子の犬は一緒になって、花びらを樽の中に集め始めました。毎朝、毎晩、二人で花びらを探しました。近所の人たちは二人のお陰で掃除をしなくて済んだのでとても喜んでいました。そして、男の子が「ぼくは木を助けるんだ」というと、それには笑うのでした。

とうとう木には最後の一枚の花びらだけが残りました、樽に入れるはずの花びらはなくなってしまいました。男の子は地面に座って悲しい気持ちになりました。花びらは全部集めることができたけれど、木からひらひら散るのを止めることはできなかつたのですから。男の子の犬は、男の子の顔をなめて元気づけました。その時、木に残った最後の一枚の花びらが、男の子のほっぺに落ちてきたのです。

そして男の子は、僕にきっと何かができる、と思いついたのでした。
一晩かかって男の子は、樽の中を空っぽにして、木に再びたくさんの花を咲かせました。

近所の人たちは目が覚めて、外に出て木を見ると、すっかり驚いてしまいました。奇跡が起きたと思いました。人々は立ち止まり、その木の写真を撮っていたので、みんな仕事にも遅れてしまうほどでした。噂はすぐに遠くまで広がりました。すぐにお祭りの用意がされて、お花見をしようと多くの人と、観光客とで賑わいました。アメリカの新聞社がこれを聞きつけて、その木はもしかしたら「月の木」ではないかと言いました。1971年にアポロ14号でスチュアート・ローザが宇宙に持っていった500粒の種から育った木のことを「月の木」というのです。その時の木が今でもずっと発見され続けています。

テレビ局の人にインタビューを受けた男の子に、人々は、神様にどんな風をお願いをしてこの不思議な事が起ったのか、と聞きました。男の子は、ただ自分と飼っている犬が、桃の木をもう一度花いっぱいにしたかっただけだよ、と答えました。テレビ局の人は、男の子が少し困っているのかなと思い「それは、もしかしたら桜と桃の木を混合させたハイブリッドとい

うこと？」と聞くと、男の子は「違うよ、桃の木だよ」と答えました。周りにいた人たちはうなずいて、「確かにこの木は桃の木だったんだ。桜の花と桃の花の両方なんか咲いていなかったさ」と言いました。男の子は大人たちが何の話をしているのかよく分かりませんでした。でも誰かが、花びらの匂いをかいでごらん、と言って、匂いをかいでみた時に初めて、それが桜と桃の花、両方の匂いがしたことに気がつきました。

その時になって初めて大人たちは、男の子と、男の子の犬は色が見分けられない色盲だという事に気がついたのです。テレビ局の人は聞きました。「どうやって花びらを木に戻したの？」

まず男の子は、糸を使って花びらをつなげてみようとしたけれど、そうすると花が風にゆらゆら揺られてお猿さんみたいになってしまったんだ、と教えてくれました。

それから男の子は、画びょうを使ってとめてみようとしたけれど、そうすると木に穴があいてしまって水玉模様だらけになってしまったんだ、と教えてくれました。

それでは、男の子はどうやって花びらを木にくっつけて戻すことができたのでしょうか？それからどうなったでしょう？このお話を聞いて感じたこと、次にどうなったのか、何でも自由に描いてみてください。

○男の子と、男の子の犬はどんな格好をして、どんな風に見えますか？

○お祭りでお店屋さんたちは何を売っていたと思いますか？

○月の木の種を持っていたアポロ 14 号はどんな形だと思いますか？

ひとつだけお約束は、どこにも名前や、言葉、数を書かない、ということです。